

全学モジュール科目案内

テーマ名	14-B9 ことばと文化とコミュニケーション		
テーマ責任者	劉 卿美	責任部局	言語教育研究センター
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
趣旨	<p>人は常に考え、行動している。これが人を作り、社会そして文化を形成してきた。この文化の形成にあたっては、考えを何らかの形で伝えること、即ち、コミュニケーションが不可欠となる。また、コミュニケーションには、ことばが欠かせない。つまり、文化とことばは非常に密接な関係にあることになる。</p> <p>本モジュールにおいては、ことばに焦点を当て、文化を理解することにチャレンジしたい。また、ことばは用いられ方によって伝える力も変化する。この魅力にも迫りたい。さらに、それぞれの文化で用いられることばを理解することによって、多文化理解の道を拓きたい。そして、適切なことばを用いてのコミュニケーション能力の向上につなげたい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを支えることばの意義を理解することができる。</li> <li>・ことばの持つ力について理解することができる。</li> <li>・ことばの多様性を理解することができる。</li> <li>・ことばの持つ内面性について理解することができる。</li> <li>・ことばを通してそれぞれの文化を理解することができる。</li> <li>・多様なことばを使って適切なコミュニケーションができる。</li> <li>・脳とことばの関係を理解することができる。</li> <li>・課題に対して積極的に取り組む態度が形成される。</li> </ul>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>ことばは我々の生活でなくてはならないものです。しかし、ことばについて深く考えることは少なかつたのではないのでしょうか。ここで、ことばを学び直し、ことばの大切さを再認識するとともにコミュニケーション能力の向上を図りましょう。</p>		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュールⅠ	(Ⅰa) マスメディアと表現	川越 明日香 橋本 健夫 高橋 信夫	ことばや映像を活用して社会に発信する新聞やテレビを取り上げ、その中でのことばの使われ方、映像の工夫などを理解するとともに、それらを批判的に受け取る態度形成の重要性等を認識する。	新聞 テレビ 記事、報道 マスメディア
	(Ⅰb) ジェンダーとことば	植木 とみ子	社会において男性と女性の関係はどうあるべきなのか。また、歴史的に培われてきた男性観、女性観をどのように現代化していくのかなど、社会における男性と女性の役割について、ことばを通して考える。	ジェンダー 男性観 女性観
	(Ⅰc) 心とことば	内野 成美	ことばは人の心と強く結びついている。心とことばの関係を、臨床事例を通して理解する。さらにカウンセラーの役割を認識し、社会での意義を理解する。	カウンセラー 心理相談 臨床心理士
モジュールⅡ	(Ⅱa) 数と表現	宇田 廣文	数は文化の重要な構成要素であることを、その歴史等を通じて理解する。また、数学的な考え方は多様であり、生活の様々な場面で活用されていることを学ぶ。※ 集中講義の形態をとります。	数の起源 数の活用 数と生活
	(Ⅱb) 音楽と表現	西田 治	音楽で用いられることばを理解するとともに表現方法を学ぶ。また、心や情景を的確に表す音楽の素晴らしさを認識する。	音楽 生活とリズム ハーモニー
	(Ⅱc) 多文化理解とことば	川越 明日香 劉 卿美 楠山 研 ベー・シュウキー	日本の隣国である中国、韓国、マレーシアの文化を、ことばを通して理解する。また、それぞれの違いを認識しながら、それぞれが持つ素晴らしさに気付く。これによって、多文化理解能力の向上を図る。	多文化理解 能力、中国、 韓国、マレー シア

	(Ⅱd) 文字とことば	鈴木 慶子 川越 明日香 中村 文子	日本のことばと文字の歴史を理解するとともに、表現方法とコミュニケーションの関係を、文字を書く体験を通して認識する。	日本の文字、書法、コミュニケーション
	(Ⅱe) 脳とことば	川越 明日香 橋本 優花里	脳の損傷がことばやコミュニケーションに与える影響を知ることによって、ことばが脳で制御されていることを理解する。そして、損傷からの機能回復と支援について考えるほか、脳に関する様々な話題について、多角的な見方を身に付ける。※集中講義の形態をとります。	脳 ことば 機能回復
	(Ⅱf) ICT とことば	福田 正弘 全 炳徳	IT機器を制御することばを理解するとともに、ITを活用したコミュニケーションの重要性を学ぶ。また、IT機器の操作を通して、生活を豊かにするIT活用法を学ぶ。さらにIT活用の倫理も身に付ける。	IT IT言葉 IT倫理

全学モジュールの目標キーワード、および授業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
(Ⅰa) マスメディアと表現	◎	◎	○		◎		○	○	○			○	◎	○		○	◎
(Ⅰb) ジェンダーとことば	◎	◎	○				○		◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○
(Ⅰc) 心とことば			○	○	○		○	○	◎	○	◎	○	○	○			○
(Ⅱa) 数と表現	○	○	○	○			◎				◎			◎	◎		◎
(Ⅱb) 音楽と表現	○		◎	◎			○	○	○	○		◎	◎			○	◎
(Ⅱc) 多文化理解とことば	◎	○	○	○		○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎		◎
(Ⅱd) 文字とことば	◎		◎	○	◎		○		○		○	○	○	○	○	○	◎
(Ⅱe) 脳とことば	◎	○			○		◎		○	◎	○	○	○			◎	○
(Ⅱf) ICT とことば	◎	◎	○	○			◎				○	○	○			○	◎
◎(特に重視)の数	6	3	2	1	2	0	3	1	3	1	3	2	2	1	2	1	6
○(重視)の数	3	3	6	5	2	1	6	3	4	4	4	6	6	5	2	5	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目